

授業概要

対人援助職を目指す者として、カウンセリングマインドの習得は必須条件となろう。本講義では、

- ① 基本的なカウンセリングの技法を理解し、実践に活かせるようになること
- ② 子どもの発達段階や心理的特質に応じた関わりが持てるようになること
- ③ カウンセリングマインドを保護者との関係作りに活かし、話を聴けるようになること

を目指している。

また、教育実習を踏まえ、保育現場や教育現場の実際を共有しながら、子どもとの関わりを考えていけるように、講義を進める。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	カウンセリングの基礎理解
第 3 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～傾聴の姿勢（演習）～
第 4 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～共感的な伝え返し（演習）～
第 5 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～聴き手の内省（演習）～
第 6 回	教育相談とカウンセリング
第 7 回	自分のコミュニケーションの癖を知ろう
第 8 回	教育実習を踏まえて ～教育相談の対象となる事例の報告～
第 9 回	中間まとめ
第 10 回	発達障害の基礎理解
第 11 回	自閉症スペクトラム障害の理解
第 12 回	連携協働のあり方
第 13 回	地域資源の活用
第 14 回	保護者との相談の留意点
第 15 回	クラス運営に活かす教育相談
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・カウンセリングマインドを理解し、身に付けること
- ・よくある相談内容について、教員・保育士としての対応の基本を理解すること
- ・学んだことを実践に活かせること

履修上の注意

- ・ロールプレイやグループワークを取り入れるため、毎回出席の上、積極的に取り組んでください。
- ・毎回プリントを配布しますので、専用のファイルを作り、保管してください。ファイルの提出を求めることがあります。
- ・出欠は、毎回授業開始時に確認します。

予習・復習

予習課題・復習課題が提示されますので、必ず実施してください。

評価方法

定期試験（50％）受講態度（30％）提出物（20％）として、総合的に評価します。

テキスト

必要に応じて、参考文献を紹介します。

授業概要

教育相談においては、児童生徒またはその保護者との個別の相談に限定することなく、彼らと接するあらゆる機会を捉え、あらゆる教育活動のなかで、教育相談的な配慮をすることが大切となる。

そのために、カウンセリングの基礎を理解し、演習を通して実践に繋がるような傾聴のあり方を習得する。また、思春期青年期の発達段階における特性及びその課題を理解したうえで、支援のあり方を学ぶことを目的に、講義を進める。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	カウンセリングの基礎知識
第 3 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～傾聴の姿勢（演習）～
第 4 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～共感的な伝え返し（演習）～
第 5 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～聴き手の内省（演習）～
第 6 回	教育相談とカウンセリング
第 7 回	教育相談の位置付け
第 8 回	思春期・青年期の発達課題
第 9 回	教育相談の手法
第 10 回	いじめ問題の理解と対応
第 11 回	クラス運営に活かす構成的グループエンカウンター
第 12 回	不登校問題の理解と対応
第 13 回	発達障害の基礎理解
第 14 回	保護者との相談の留意点
第 15 回	チーム学校としての取り組み
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・教育相談に必要な基礎的知識（カウンセリングの理論や方法に関する基礎知識を含む）を身に付けること
- ・生徒の発達段階、心理的特質、教育課題に即した相談内容について、教員としての対応の基本をりかいすること
- ・学んだことを、実践に活かせるようにすること

履修上の注意

- ・ロールプレイやグループワークを取り入れるため、毎回出席の上、積極的に取り組んでください。
- ・毎回プリントを配布するので、専用のファイルを作り、保管してください。ファイルの提出を求めることがあります。
- ・出欠は、毎時確認します。

予習・復習

- ・予習課題や復習課題が提示されますので、必ず実施してください。

評価方法

定期試験（50％）受講態度（30％）提出物（20％）として、総合的に評価します。

テキスト

- ・参考資料：『生徒指導提要』（文部科学省）2011
必要に応じて、参考文献を紹介します。